

～より多くの人に利活用される図書館を目指して～

霧島市立国分西小学校

司書教諭  
学校司書

下村 陽子  
久保田 智子

1 はじめに

本校は児童数660名、職員数52名、学級数32学級（特別支援学級11学級含む）の学校である。鹿児島県の県央に位置し、屋上からは南の桜島や錦江湾、北の霧島連山を望むことができ、桜の時期には多くの観光客の訪れる「三万桜」が隣接している風光明媚な場所である。自衛隊が近くにあることもあり、転入転出児童も多い地域ではあるが、学習時には落ち着いて授業を受け、休み時間には担任と一緒に校庭で元気に走り回る子供らしい児童が多く見られる。

また、お話サークル「りんごの木」は本校の親子読書会から始まったお話会で、本校ではこれまで34年間継続して教育課程に組み込んでお話会を実施しており、「この時間が一番好きな時間」と楽しみにしている子供がいる、お話に親しむという恵まれた環境の学校である。

2 本校の読書活動

◎ 子供の「読みたい」心をくすぐる工夫

- ア 学校図書館システム
- イ カーリル導入
- ウ カーリルで予約した書籍を学校図書館システムに反映
- エ 学校図書館応援団の方々の協力で本に手を伸ばしたくなる造形物
- オ 図書委員会や職場体験の児童・生徒のポップ
- カ 読書月間には教職員の本の紹介（ポップ）

※ 読みたい本がすぐ手に入る



3年生 国語



読書クラブ 読書会

◎ 子供の「学びたい」心をくすぐる工夫

- ア 授業と絡めたブックトーク
- イ 情報活用能力の系統表を意識したワークショップ
- ウ 学校図書館を利活用した授業の展開

◎ 居場所作りの工夫

- ア クールダウンが必要な児童にとって居心地の良い居場所
- イ 活発な児童も多いが、静かに一人で過ごしたい児童の居場所
- ウ 親や担任以外の大人とおしゃべりしたい児童の居場所

◎ 外部との連携

ア 国立国会図書館や霧島市立図書館からの相互貸借、県立図書館の貸出文庫を利用し、学級文庫として一定期間利用することにより、年々減り続ける図書費を補っている。同時に本校図書館にはない図書資料に子供たちが出会う機会となっている。

イ 年1回「りんごの木」おはなし会の方々に全学級に入ってもらい、ストーリーテリングなどをしてもらっている。

ウ 学校図書館応援団(支援してくださる方)の協力を得て、読書感想文のワークショップや、水族館の獣医師を招いて学習に関連したお話会を開催した。

### 3 司書教諭・学校司書の思い

司書教諭は赴任して1年目、学校に慣れることが精一杯の日々。学校司書は赴任して3年目、前任校との図書館利用の違いに戸惑う日々から少しずつ読書活動を広げられるようになってきた。

司書教諭は、見通しをもって読書活動を進められるよう、図書館の有効活用や学校司書との連携を図りながら、教科横断的な読書指導を目指している。

学校司書が赴任した3年前はコロナが終息する直前で、アクリル板越しの本の貸出や、図書館の滞在時間制限や図書の持ち帰り禁止など多くの読書活動の制限があった。そのため、児童の本離れが進み、手に取る図書はアニメや映画など映像関連のものが上位を占めていた。もちろん魅力的な図書ではあるが、与えられた映像だけではなく言葉から広がる想像の世界を楽しむ読書につなげていきたいと考えた。

### 4 利活用されるための手立て

ア 教育課程に読書指導年間計画や、学校図書館運用計画、学校図書館を利活用することで身に付けたい情報活用能力(系統表)を挿入して読書指導の全体への周知を図る。

イ 学校図書館から「この単元の時にこんな本の紹介やトーク、ワークショップができますよ」とPRしないと、担任も遠慮や時間のなさで学校図書館活用や図書資料活用につながらないので、「図書の時間」に担任へ話しかけたり、職員向けの図書だより「かわら版」で紹介したりしている。

ウ 職員全体の研修は時間をとることが難しいため、初任者研修の時間をもらい、学校図書館に関する読書指導の研修を実施している。

エ 研修主任と連携を取り、図書館活用による読解力向上の推進を図っている。

オ 国語の読み物単元のブックトークでは、深く物語の世界に入れるように作者についての紹介やエピソードを組み込んで実施している。

### 5 成果と課題

#### 〈成果〉

- キーワードで配架されていた書架を日本十進分類法の分類で配架に変えたことで、子供たちが探したい資料にたどり着きやすくなった。
- 多くの図鑑を貸出可能にすることにより低学年児童の知的好奇心を刺激し、興味があるものの図鑑を借りて詳しく知ろうとする様子が増えた。
- 研修主任と連携し「読解力」を高めるための図書資料の活用について情報交換や情報収集をしている。
- ブックトークの機会が増えてきたことにより、児童の選ぶ図書の幅が広がってきた。
- 赴任して3年目に入った今年度は児童に本を紹介すると、「読んでみる」と素直に借りるようになり、「先生のおすすめの本」は？と尋ねてからその本を借りたりと少しずつ信頼関係が出来てきていると感じる。
- 授業の中にブックトークを組み込むことにより、作品や作者の背景を知り、多角的に読みを深めるきっかけになった。

#### 〈課題〉

- 読書指導の職員研修を実施出来ていないので、各職員が読書指導の内容を周知できているかどうか把握が難しい。
- 教育課程にある情報活用能力の系統表と学校図書館運用計画表の見直しが必要である。
- 学校図書館オリエンテーションで一応のきまりは伝えるが、本棚への返却や過ごし方などは繰り返し指導する必要がある。